

サ・ク・ラ・サ・ク!4th



(最高学年、苦楽を糧に、さあ、クライマックス!)

上野高校進路指導部通信(3年生 家庭配布版) vol.7 2013/9/18

今更聞けない大学入試センター試験の基礎知識 2014 年度入試編

①センター試験の主な特徴

(1) 国公立大学を受験する人はマスト。大学個別の試験との総合点で合否が判定

センター試験は、原則的にすべての国公立大学が一次試験として利用する共通試験です。センター試験後、二次試験を受け、両試験の総合得点で合否が判定されます。

(2) 私立大学も入学試験として利用する(センター方式)

たいていはセンター試験の成績のみで合否を判定するため、出願するだけで自動的に合否が決定します。その大学へ行って試験を受ける必要がないので負担が少なくて済みます。必要科目数は各大学、各方式多様で、国公立第一志望で私立を「滑り止め」にする生徒の多くは、科目数の多い方式に出願します。私立専願の人は一般入試と同じ科目数で出願します。一般試験とセンター試験を併用する方式もあります。

(3) 入試として課す科目・配点は各大学に任されている

センター試験で用意されている6教科29科目のうち、受験生にどの教科・科目を課すのか、どのような配点をするのか、については、すべて各大学の裁量に任されています。例えば三重大学の工学部は、二次試験で英語の試験がない代わりにセンター試験の英語の配点を高くしてあります。

国公立大学は5教科7科目が主流で、文系では国、外+リス、数×2 地歴・公民から2 理科、理系は国、外+リス、数×2 地歴または公民、理科から2です。

(4) 採点はコンピュータで処理、全問マークセンス方式

センター試験は、選択肢から正解と思われるものを選び、マークを鉛筆で塗りつぶしていく「マークセンス方式」で実施され、採点はコンピュータによって行われます。

(5) 出題は文部科学省検定の教科書範囲内

センター試験の問題は、平均点が6割程度になるような方針で作成されています。教科書範囲を超える難問・奇問は出題しない約束です。教科書をきちんと理解できていれば、高得点が取れます。

(6) 受験生本人には、得点を通知されないため、自己採点が必要

国公立大学2次試験出願前には、受験生に得点は通知されません(開示を申し込めば4月以降に本人に通知されます)。そのため、新聞発表の解答で自己採点し、自己採点業者などに提出します。

②国公立大学への出願…分離分割(前期・後期)方式と公立大学中期日程

国公立大学を受験する人は最初にセンター試験を受け、試験後に「志望校」に出願し、2次試験を個別

に受験します。2次試験には「分離分割方式」と「公立大学中期日程」があります。

分離分割方式とは、同じ大学・学部の募集定員を前期（2月下旬）と後期（3月中旬）の2つの日程に分けて、入試を行う方式です（出願は同時に行います）。募集定員は前期が多く後期は少ない大学がほとんどです。したがって出願時は後期の倍率が極端に高くなります。ただし、前期日程に合格して入学手続きをした人は後期日程の受験資格を失いますので、実際は3倍程度の競争率になります。

中期日程は公立大学の一部で実施されています。前期と後期の間に試験が実施され（3月上旬）、これらと併願も可能です。前期入試で合格して手続きすれば合格資格を失います。ごく一部の公立大学は全く別日程（A, B, C）で入試を実施します。詳しくは『進路の手引き』を参照してください。

③2013年度以降のセンター試験、重要な変更点

- (1) 地歴と公民を同じ試験時間帯で実施し、1科目受験は60分で解答、2科目受験は130分の中で2科目を解答します（開始60分後に第一解答科目を回収します。途中で退出できません）。
- (2) 公民に新科目「倫理、政治・経済」が加わります。
- (3) 理科は（1）と同じ方法で最大2科目の選択となります。
- (4) 受験教科を出願時に申請します。「地歴・公民」「理科」は受験科目数を出願時に申請します。

今回の変更に伴って、「地歴・公民」「理科」では、これまで受験できなかった科目の組合せの受験（例えば、「地歴2科目の受験」）ができるようになりました。

一方、センター試験の出願時（9月下旬）に受験教科（外国語、数学、国語、理科、地歴・公民）を決定しなければならなくなりました。また、「地歴・公民」「理科」では受験科目数（1科目か2科目か）もあわせて決定したうえで出願が必要となります（地歴と公民はまとめて1教科扱いなので、「2教科受験」と申請しておけば、当日地歴を2つ、地歴と公民を1ずつ、どちらも受験可能です）。

2科目受験、1科目受験は開始時間と受験教室が異なります。2科目受験で申し込んだ人が志望変更で「1科目でいい」となっても、2科目目の時間から入室しようとしてもできませんし、途中で退室することもできません。志望校をよく検討して、最大必要数を受験するようにしてください。

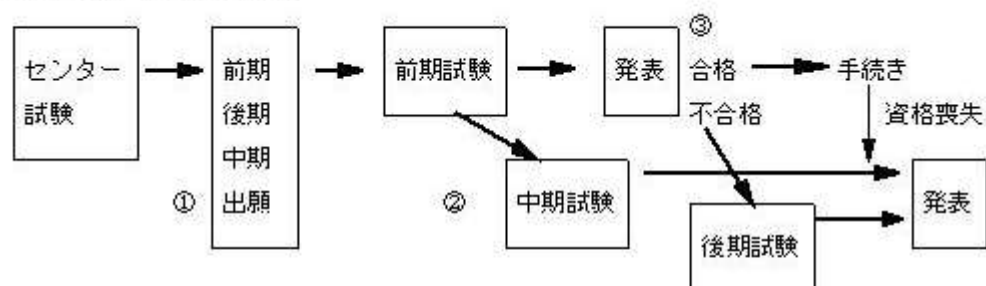
④ 受験するときにも要注意！「第一解答科目」と「第二解答科目」

「地歴・公民」「理科」は開始から60分後に「第一解答科目」を回収します。「地歴・公民から1」、「理科から1」を条件とする大学はこの「第一解答科目」を得点とします。

理科については、たいいてい理系の国公立は「理科から2」指定ですが、後期入試やAO入試では1科目を指定する大学がごくまれにあります。その場合、「化学」「物理」の順で解答した生徒は、「物理」を指定する大学は受験できません。また「地歴・公民」の場合も「第一解答科目は地歴」という指定がある大学がごくまれにあります。必ず募集要項で確認してください。

また「地歴・公民」では「4単位科目」（地歴B科目、「倫理、政治・経済」）の受験を義務づける大学があります。これらの大学は2単位科目の地歴A科目や「現代社会」での受験はできません。難関大学の文系は、現在ほぼこの4単位科目の受験を義務づけています。

国公立大学一般試験の流れ



- ① 前期・後期・中期は同時に受験する。
- ② 中期試験は前期発表の前後にある。前期に合格して手続きすれば中期は合格から除外。
- ③ 後期試験は前期の手続き後にある。前期に合格して手続きすれば後期は受験できない。

4 試験期日・試験時間割

期 日	出 題 教 科 ・ 科 目		試 験 時 間 (→注 1, 2)
平成 26 年 1 月 18 日(土)	地理歴史 公 民	「世界史 A」「世界史 B」 「日本史 A」「日本史 B」 「地理 A」「地理 B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理、政治・経済」	2 科目受験 9:30～11:40 1 科目受験 10:40～11:40 (→注 3)
		国 語	「国語」 13:00～14:20
	外 国 語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 「英語」のみ 17:10～18:10
1 月 19 日(日)	理 科	「理科総合 A」「理科総合 B」 「物理 I」「化学 I」 「生物 I」「地学 I」	2 科目受験 9:30～11:40 1 科目受験 10:40～11:40 (→注 3)
		数 学 ①	「数学 I」「数学 I・数学 A」 13:00～14:00
	数 学 ②	「数学 II」「数学 II・数学 B」 「工業数理基礎」「簿記・会計」 「情報関係基礎」	14:50～15:50

(注 1) 試験室への入室時刻については、受験票(→p.26)とともに送付する受験上の注意において指示します。

(注 2) 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後 20 分以内の遅刻に限り、受験を認めます。ただし、リスニングは、試験開始時刻(17:10)までに入室していない場合は受験することができません。

(注 3) 「地理歴史、公民」及び「理科」の試験時間については、登録した科目数(1又は2科目)によって試験開始時刻が異なります。

なお、「2科目受験する」と登録した場合は、遅刻者の試験室への入室限度である 9:50 までに入室しないと、後半の第 2 解答科目を含めて、その試験時間は一切受験することができません。また、第 1 解答科目と第 2 解答科目の間の 10 分間は、トイレ等で一時退室はできません(→p.42)。

17 受験教科

受験する・しないにかかわらず、必ず該当する選択肢を1つ選び、その記号を正しく記入してください。

教科名	選 択 記 入 欄	
国 語	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/> 187
地理歴史 公 民	A…1科目受験する B…2科目受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/> 196
数 学	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/> 199
理 科	A…1科目受験する B…2科目受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/> 200
外 国 語	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/> 201

※選択記入欄に正しく記入されていない場合（未記入、複数の記号を記入、選択肢にない文字を記入等）は、その教科は「受験しない」教科として登録します。

⑤ 国公立大学合格に抜け道や裏技は不要。ひたすら「王道」を目指せ！

理論上、国公立大学は推薦入試（1校だけ受験可。合格したら入学辞退不可）、前期、中期、後期と計4回の受験機会があります（推薦の代わりにAOを実施する大学もある）。しかし推薦やAO入試は募集定員が極端に少なく、小論文や口頭試問が課される難関です。「チャンスは多い方がいい」「ペーパーテストが不要」といった安易な理由で受験するとデメリットの方が大きくなります。中期試験は実施する大学が少なく、全国から生徒が集まりますので激戦を覚悟しておくべきです。後期日程は前期の合格者の数で倍率が変わりますから、合格の保証は全くできません。

「最後まで頑張る」は当然ですが、まずは前期日程での合格を第一と考え、それに沿った学習計画を立てましょう。前期試験が最も定員が多く、センター試験で何割、二次試験で何割など勉強の目標が建てやすいからです。

国公立大学の二次試験は前期が2~3教科、最難関で4教科。センター試験の配点が高い大学と、センター試験は単なる資格審査という大学（最難関に多い）がありますが、ここ2年はいわゆる「安全志向」といって、例えばセンターの持ち点なら名古屋工業大学合格可能であるのに、確実に合格をするため三重大学工学部に志願する生徒が増加しています。また二次の配点が高い難関大学も、センター試験の大量得点が合格の第一条件になっています。

受験とは「合格したい」という気持ちのぶつかり合いです。「効率的な勉強法」は存在しますが、「楽しんで合格する方法」は存在しません。志望校に沿った学習計画を地道に積み重ねてください。



情報収集力とそれに基づく計画力、行動力が合格の鍵！